

2024年1月号（通巻176号）

山正ニュース

<https://www.yamasyou.com/>



山正 LINE 公式アカウント友達募集中！

レイミーの AI 病虫害雑草診断アプリ



＜山正設立60年に感謝＞ 土とかかわる一人一人と向き合い 続けて60年。これからもともに大地 の未来を創造する山正。

新年明けましておめでとうございます。2024年が、皆様方にとって良い年となるよう祈念します。新型コロナウイルスは5類に分類され、徐々に日常生活は普段通りになってきました。オーバーツーリズムが問題となるくらいに、人々の動きは活発になってきました。しかしながら、一方ではウクライナ紛争は継続され、ハマスとイスラエルの戦闘も終わりが見えていません。世界経済も金利上昇に歯止めがかかり、中国の成長にも陰りがみられ、次の段階が見えにくい状況になっております。日本国内においてもデフレを脱却し、インフレ傾向と、日常生活用品の値上げや税金、社会保険料の負担増を考えると、厳しい経済・財政状況であることは間違いのないと思われれます。閉塞感に見舞われていますが、2024年は平和で明るい話題が多くある年になるよう期待します。

2023年は、異常な暑さに苦しめられた1年でした。夏の平均気温が1.7℃上昇し、連続真夏日が60日以上、11月でも夏日を記録するなど、台風は少なかったものの、今までとは違う「地球沸騰化」を予感させる年でした。水稲1等米比率61%と過去最低に加え、野菜や果樹の品質の維持、収量の確保も厳しい年であったかと思われれます。カメムシ類の多発だけでなく、トマトキバガやヨツモンカメノコハムシなど今まで見られなかった害虫の発生も多くありました。異常気象への対応に加え、「みどりの食料システム戦略」の実践、農業においてもカーボンニュートラル、SDGsが求められ、「J-クレジット」が販売できる時代となります。新しい観点も加えて、日本農業を作り上げていく戦略が必要とされています。

さて、農業業界は金額ベースでは例年並みの実績でありましたが、物量ベースでは確実に減少傾向で、予約数量の減少を考慮するに、必要時に必要量だけの当用期での購入が主流となりつつあり、それに伴う流通在庫の減少も大きく影響しているものと思われれます。しかしながら、流通場面での2024年問題を鑑みるに、必要時に必要量の配送の手間暇、コストを考えると、ある程度の在庫保持は各流通段階で必要とされ、確実に使用す

る商材に関しては早めの手当と確保が必要です。肥料価格は落ち着きを取り戻しつつありますが、原料を輸入に頼っている現状では供給量も価格もまだまだ不安定であると思われれます。ハウス資材価格の値上げも一段落ではありますが、現状価格が下がることはないと思われれます。このように生産資材コストはインフレですが、農産物価格は依然として市場価格、小売価格に左右され、農家様の収益を圧迫しております。いかに、高品質で高付加価値の農産物を生産して高く販売するか、もしくは単位面積の収量を多くし収益を稼ぐのか、農家様にもマーケティング戦略が必要です。

このような環境下、山正としては、農家様の収益向上へあらゆる形での貢献をしていく所存で、様々な取り組みを始めております。「山正栽培プロジェクト」では、有機 JAS 適合肥料や、独自配合肥料の製造販売、「イチゴプロジェクト」では、種苗の生産販売、栽培管理システムの構築、海外輸出へのブランド化 Global-GAP の取得支援をしていきます。さらには、地元の金融機関や会計事務所と連携し、新規就農支援活動、資金手当、経営コンサルの実施、補助金申請のお手伝い等、農家様の「助っ人サービス」に取り組んでいきます。

令和6年2月1日をもって株式会社山正は設立60年を迎えます。この60年の節目にあたり「山正リブランディング」を敢行しております。山正のロゴマークを新たに作成、山正独自品や栽培技術として「山正スタイル」ブランドの育成、社員の「資格アイコン」の制定を行いました。お世話になっている得意先のお客様、仕入先を始めとする関係先の皆様には順次ご紹介させていただきます。

山正経営理念である「絆(きずな)経営：みんなの幸せのための、環境(まち)づくり人財(ひと)づくり」を、4つの行動指針「自働」「協働」「即行」「感謝」でやり続けたいと思います。引き続きの、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

2024年1月
株式会社 山正
代表取締役 堅田充宏

§1 第9回「飛騨農の会」を開催

2023年11月15日(水)に、高山市のコンベンション・ミュージアム・マウントエースにおいて、第9回の「飛騨農の会」を開催いたしました。本年は、農薬・肥料・資材の各メーカー34社に出展のご協力をいただき、当日は360名を超えるお客様にご来場いただきました。

近年は、猛暑やゲリラ豪雨をはじめとした異常気象による被害が頻発しており、今までの栽培技術や管理方法に加え、暑さ対策商品が求められています。また、作物の生育・収量を今まで以上に向上させるための新しい技術や、生産物の品質向上のための商品が求められております。各メーカーのブースにおいても新しい商材や新技術の提案、現場での困りごと等の相談がなされておりました。

また、今回は会場の中心に山正ブースを設置させていただき、「山正スタイル」と銘打った、山正の独自商品として、有機JAS適合肥料、微生物資材、栽培用土を発表させていただきました。(山正スタイル商品は次月号にて詳しくご紹介させていただきます。) お客様からは多くの関心を持って頂き、来年の作付けに合わせて、土壌診断からの施肥設計や微生物資材の使用についての相談にのらせていただきました。今後も土壌診断や微生物鑑定を実施しながら、現場の実態にあわせた資材の使用についてのご提案をさせていただきます。ご興味のある方はお問い合わせください。

今回参加していただいたお客様からは、「今年もたくさんの新しい商品を紹介して頂いた」「山正スタイル商品にとっても興味がある」「農薬、肥料、培養土、ハウス資材と、すべてのカテゴリで相談が出来た」等のご感想をいただきました。一方、メーカー様からは、「生産者の方と対話できる貴重な機会」、「生産現場の声や現場で必要とされていることについて再確認できた」、「来年以降の課題として活かして行きたい」との感想を頂きました。

まだまだ不十分な点もありますが、来年以降もより良い展示会を開催できるよう努力させていただきます。ご来場いただいたお客様には感謝申し上げます。



§2 「1等米」比率、猛暑で過去最低59.6%

府県名	2023年度(%)	
		前年比(ポイント)
新潟	13.5	▲60.9
静岡	80.4	▲5.0
富山	56.8	▲28.9
石川	79.6	▲1.9
福井	85.0	▲4.5
岐阜	42.9	▲5.0
愛知	20.8	▲8.2
三重	31.6	▲8.4
滋賀	57.4	▲7.8
京都	62.7	▲6.5
全国	59.6	▲16.2

農水省からの発表では、2023年産水稻うるち玄米の1等米比率が、9月末時点で59.6%でありました。猛暑の影響で、東北や北陸の主産地を含む11県で前年同時期より10ポイント以上下落しました。特に新潟県では、60.9ポイント下落して13.5%でした。等級低下の理由としては、猛暑と降雨量不足により、「高温・渇水で白未熟粒が増えた」とのことでした。

品種別に見ると、コシヒカリの1等米比率は47.4%(前年同月比より23.2ポイント下落)であり、新潟県では、3.6%(同76.6ポイント下落)と大きく下がりました。高温下でも白未熟粒になりにくい特徴を持つ高温耐性品種のうち、新潟県の「新之助」、富山県の「富富富」は1等米比率9割以上を維持しており、猛暑対策のための品種の選定も大事な要素となりつつあります。